

# 好生館だより

KOSEIKAN DAYORI

2012.12

第17号



開院を待つ佐賀県医療センター好生館

- 理事長・館長：ごあいさつ……………①
- フライトナース研修を終えて……………①
- 診療科紹介：消化器内科、消化器外科……………②
- 看護部だより……………③
- 医療安全だより……………④
- 癒しの「書」がパワーアップしました！……………④
- 豆知識：御屠蘇について……………⑤
- 知っていますか？検査の話：乳がん検診について……………⑤
- 新病院建設の進捗と移転計画について……………⑥
- 新任医師の紹介……………⑥
- 外来医師一覧表……………⑦



地方独立行政法人 佐賀県立病院好生館

〒840-8571 佐賀市水ヶ江一丁目12番9号  
TEL 0952-24-2171(代表) FAX 0952-29-9390  
<http://www.koseikan.jp/>



## ごあいさつ



理事長

十時 忠秀

新病院は、これまでの好生館の歴史と伝統を礎とし、2013年5月7日を開院日として、新たな地で、新しい施設のもとで、新たなスタートを切ります。

新病院は、東日本大震災の際にも影響が少なかった地震に強い免震構造を採用し、電力や水の確保にも考慮しました。屋上にはヘリポートを備えるなど、「基幹災害医療センター」としての機能の充実を図りました。

また、建物は国土交通省の平成22年度省CO<sub>2</sub>先導事業に採択され、省エネ、省CO<sub>2</sub>に優れ、地球環境にもやさしい病院となっています。

医療機能については、建物が新しくなるだけでなく、中身も充実するよう努力いたします。

2012年4月に設置した外傷センター、乳腺外科、脊椎外科のほか、新病院では、卒中センターやハートセンターを充実させたいと考えています。

今後、好生館の新病院での取り組みに期待していただくとともに、北に位置します佐賀大学医学部附属病院と連携を組み、佐賀県民の健康を守る最後の砦として努力して参りますので、ご厚誼賜りますようお願いいたします。

## ごあいさつ



館長

榎木 等

いよいよ新しい好生館病院が平成24年末に竣工します。独立行政法人となり、新病院の準備に追われ、あっと言う間の数年でした。

移転に向けての確認作業が現実感をもってせまっております。職員一同真摯に検討奮闘の毎日です。

病院内に目を向けますと国内、国外ともに多くの問題を抱えており安心安全にほど遠い状況に見えます。それでも日本国は英知を凝集して問題解決に向かう力はありません。医療は社会の縮図ともいえません。好生館も沢山の課題がありますが、一つずつ解決して行きます。新しい病院に継続してもって行くものは安心安全な医療提供です。医療関係者の皆様と益々の医療連携を充実して実現したいと思います。

当地での最後の年末、新年を迎えると思うと誠に感慨深いものがあります。直正公に1858年に拝命し、皆様に愛していただいた「好生館」、そして先人の医徳をしっかりと継承できるように、今後とも皆様の御支援と御意見を宜しくお願いします。

## フライトナース研修を終えて



救命センター  
看護師

大串 和章

10月15日から10月28日までの2週間、国立病院機構長崎医療センターにおいてドクターヘリ・フライトナース研修を行ってきました。長崎医療センターでは2006年よりドクターヘリの運航を開始されています。

ドクターヘリとは「救急専用の医療機器を搭載し、医師・看護師が乗り込んで患者のもとに急行し、病院などに搬送する間に救命医療を施すことのできる救急ヘリコプター」のことです。ドクターヘリにより「早期からの治療開始、救急搬送時間の短縮による救命率の向上や後遺症の軽減、へき地における救急医療体制の強化、災害時の医療救護活動の充実」などが期待できます。

ドクターヘリは要請から5分以内に離陸し、フライトナースは現場までの飛行中にフライトドクターと情報交換を行い治療計画を立てていきます。少ない情報の中で、様々な点からアセスメントを行い、臨機応変に対応できる能力が求められます。また、現場では消

防などの他機関との連携が重要であり、現場でコーディネーターとしての役割もあることを学びました。

佐賀県は平成25年の秋からドクターヘリの運航が予定されています。運航には消防・地域医療機関・院内での連携が重要であり、地域住民の理解と協力が不可欠です。私自身もこれから他機関との連携を重視し、佐賀県の救急医療の向上に貢献していきたいと考えています。





## 【診療科紹介】消化器内科



部長  
緒方 伸一

### 正確な高度医療を提供します

2000年6月に着任し、13年目となりました。九州では最も早い2001年からは早期消化管癌の内視鏡治療（内視鏡的粘膜下層剥離術；ESD）を開始しました。現在では早期癌の初期治療としては当然

の治療となっていますが、当時は東京で行われる研究会に頻りに発表や参加をするしか技術の向上は図れませんでした。当初、北は山口県、南は鹿児島県からも早期癌の患者さんの御紹介を受けていましたが、2006年の保険適応後には各地で普及が進み、現在では佐賀県内と周辺の他県境からの紹介程度となるとともに、胃・十二指腸潰瘍や胃癌自体が減少してきています。代わって大腸ESDの症例が増加しつつあり、消化器内科の主戦場は食道・胃などの上部消化管から、結腸・直腸などの大腸に移行してきています。潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患や高齢化に伴う憩室出血や直腸潰瘍などの

緊急性疾患も増加の一途であり、消化器内科への期待は高まるばかりです。

2012年からは食道アカラシアやびまん性食道症（POEM）を開始し、県外の熊本市や久留米市・大牟田市からの紹介も受けるようになってきました。これらの疾患は頻度こそ少ないものの、外科的根治術が非常に高侵襲性であるのに対して、昭和大学横浜市北部病院の井上晴洋先生が考案されたPOEMは治療後当日から飲水、翌日から摂食開始し4泊5日で帰宅できるという素晴らしい治療法です。

従来の治療を確実に行うことは当然として、新たな治療に対しても積極的に導入・実施することで地域の皆さんに喜んでいただけるよう努力して参りたいと思います。



## 【診療科紹介】消化器外科



部長  
佐藤 清治

### 「疾患のみならず病む人を治す」を心がけています。

【がん治療】我々消化器外科が担当する疾患の多くは日本人死因のトップである癌疾患であり、臓器は食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆道、膵臓など多岐にわたります。基本的な治療は手術であり、治療

可能な症例には安全かつ根治性を追求した手術を行い、やや進行した症例には根治性向上を目的とした術前化学療法を積極的に施行しております。更に進行した治療困難な症例に対しては、緩和治療とともに抗癌剤治療を緩和ケアチーム、腫瘍内科等と連携しつつ治療し、抗癌剤治療も標準治療にとどまらず、先進的な臨床試験にも積極的に取り組んでいます。またこれら全ての患者さんには一貫した感染管理、栄養管理を含む全身管理を必要とするため、時に栄養サポートチーム、感染制御チーム等の力もお借りするというチーム医療を根幹としています。

【手術】消化器スタッフのみならず、小児外科、呼吸器外科、乳腺外科、放射線科、病理医が参加するカンファレンスで、時には険悪なムードとなる(?)ほどの激論を交わしての適切な方針決定となります。年間約650例の手術症例のうち4分の1以上は緊急手術であり、急性胆嚢炎、急性虫垂炎、腸閉塞、腸管穿孔、外傷などにも昼夜を問わず対応しております。低侵襲かつ正確性の高い鏡視下手術も、大腸癌や早期胃癌に対しては全例を対象に施行し、最近では緊急手術症例にもその多くを鏡視下手術の対象として取り組んでいます。

2008年に佐賀大学チームとして赴任以来、4年半が経過致しました。当初4名の外科医師でのスタートでしたが、現在では50歳代2名、40歳代3名、30歳代3名の、高齢化社会とともに年老いてきた8名と数名の研修医たちで、やや疲弊しつつも、がん診療を中心に高度医療、低侵襲医療、救急医療と佐賀県の医療ニーズを支えるべく、日夜奮闘しております。



## 看護部だより



## 特任肝炎コーディネータとして活動しています。



大串 弘子

私は、平成24年2月より特任肝炎コーディネータになり、インターフェロン治療を受けられる患者さんの体調管理、治療についての不安や悩みを聞いたりして、治療が継続できるよう心と体をサポートしています。治療を終えられた患者さんの笑顔が見られた時は、とても嬉しく感じています。佐賀県は、12年連続肝がん死亡率1位が続いています。

佐賀県の肝硬変・肝がんによる死亡者を減らすことを目的として肝炎コーディネータが誕生しました。県内7つの専門医療機関に特任肝炎コーディネータが配属されています。患者さんやその家族の相談業務や肝疾患連携の推進、市民啓発活動、肝疾患調査支援のためのデータ登録業務を行っています。各医療機関の連携を図るための地域肝炎コーディネータへの講演会を企画なども行っています。肝疾患の患者さんやご家族の相談を受けるための専用PHSを持っていますので、お気軽に相談してください。

## 糖尿病コーディネート看護師として活動を開始しました。

私たちは、糖尿病療養指導士の資格を持っていますが、8月から糖尿病コーディネート看護師育成研修を受講し、10月から糖尿病コーディネート看護師になり活動を開始しました。

現在、国民病と言われるほど糖尿病患者は増加しており、なかでも、佐賀県は糖尿病腎症から人工透析まで進む患者が多く、透析となる年齢が全国平均と比べて10歳若いという状況です。平成24年度の佐賀県の事業として①佐賀県内の糖尿病の合併症発症予防と合併症進展予防 ②糖尿病医療に携わる医療スタッフの活躍の拡大 ③佐賀県内の糖尿病医療水準の向上の目的で、糖尿病看護師育成事業が開始になりました。



患者さんのこのような悩みに対応します

- 自宅近くに病院があるけど、どこを受診したらいいのか分からない
- 病院が変わる時に、お手紙だけで情報がちゃんと伝えられているのか心配・・・
- いきなり受診するのは、行きにくい
- 糖尿病の合併症について、もっと詳しく知りたい
- 糖尿病の薬や治療方法についてもっと詳しく知りたい

患者さんが、糖尿病について理解を深め継続的な治療をしていただくために、佐賀県糖尿病連携手帳を使って患者さんと一緒に考えます。また、専門医療機関とかかりつけ医との橋渡し役として、患者さんの治療がより良好に継続できるように支援します。



## 医療安全だより

## 医療安全管理部の現状



専従リスクマネージャー  
森田 洋子

医療安全管理部は医療安全管理部長、医薬品安全管理担当者、医療機器安全管理担当者、医療安全事務担当者、医療安全管理者で構成され、現在のメンバーは兒玉副館長、松永薬剤部長、内藤MEセンター長、山田庶務係長、GRM森田です。

医療安全管理部は毎週金曜日に定例会議を行っています。この場で1

週間のヒヤリハット報告の患者影響度レベル判定、事例分析、合併症報告について検討をしています。具体的な対策が必要な事例については、医療安全対策委員会で検討し医療安全管理委員会で審議します。

今年度のヒヤリハット例を1つあげます。持参薬が後発薬剤に替わる時に両方の薬剤が投与され過剰投与となった例です。

ヒヤリハット報告後に、まず各部署における持参薬の指示から与薬までの現状を調べました。その結果、後発薬剤の増加によりそれまでの持参薬登録、Diシステムが機能してあらず、持参薬に関する指示はほとんどが口頭指示でした。その為、与薬前に指示を確認したくても電子カルテでは情報収集できない現状がありました。

そこで医療安全対策委員会で医師、薬剤師、看護師が情報を共有し安全に与薬するための持参薬の運用を

検討しました。入院時に看護師・病棟配置薬剤師は、患者の持参薬を確認し薬剤管理状況・服薬状況などの情報収集を行う。薬剤師は、PDFファイルに薬剤管理票、プログレスノートに持参薬情報を入力する。医師は持参薬情報を把握し電子カルテの指示コメントに指示し患者に説明する、看護師は指示を受け与薬を行う。とそれぞれの職種の責任を明確にしました。それを医療安全管理委員会で審議し病院運営会議で決定・周知しました。

また今年度の上半期のヒヤリハット報告数は685件です。薬剤に関する項目29%、転倒・転落22%、ドレーンチューブに関する項目16%でした。日本医療評価機構で収集されたヒヤリハット報告も薬剤27%、転倒・転落19%、ドレーンチューブに関する項目15%であり同様の集計結果でした。重大な事故が発生した際には、発生前に多くのヒヤリハットが潜んでいる可能性があるといわれています。ヒヤリハット事例を集め情報を共有し分析することで事故を予防することが大切だと考え、積極的に報告をして頂くように呼びかけていきたいと思っています。

寄せられたヒヤリハット報告は、医療安全管理部で1つ1つ検討し医療事故防止に役立てていきたいと思っています。そして県民の方々に対し安心して安全な医療の提供を目指していきたいと思っています。

## 【好生館ニュース】 癒しの「書」がパワーアップしました！



副事務部長  
大木 夏雄

全日本高等学校書道コンクールにおいて17連覇中など全国トップの実力を誇る佐賀北高校書道部の皆さんから、昨年に続き本年も書道作品の寄贈がありました。

好生館の「癒しの空間プロジェクト」(プロジェクトリーダー-佛坂俊輔整形外科医長)では、その活動の一環として、佐賀北高校書道部の皆さんからいただいた書の展示を昨年からはじめており、来館者の方々に大変好評をいただいています。11月6日、書道部長の古賀実沙希さんに対し、十時忠秀理事長から感謝状の贈呈を行ない、贈呈後、古賀さんから「一人でも多くの人に笑顔になってほ

しい」と作品に込めた思いが述べられました。

作品は、これまでの16点に、新たに10点(「舞」、「樂」、「笑聲」、「夢はでっかく根は深く」、「上を向いて歩こう」、「前進」、「壽慶」、「無限大」、「あなたが生きる今日がすばらしい」、「一歩ずつ一歩ずつ」)を加えました。1~3階の外来スペースなどを中心に、作風に合わせて展示しています。ご来館の際は、足を止めてお楽しみください。



佐賀県立佐賀北高等学校書道部の皆さん



## 豆知識 御屠蘇について



薬剤師

徳永 晃

「屠蘇」とは「悪鬼を屠り、死者を蘇らせる」という意味があり、正式には「屠蘇延命散」、または「屠蘇散」といい、十種類近くの生薬を合わせたものです。この生薬を日本酒やみりんに浸して成分を抽出したものを飲みます。だいたい白朮（びやくじゅつ）、防風（ぼうふう）、桔梗（ききょう）、陳皮（ちんぴ）、桂皮（けいひ）山椒（さんしょう）、大黃（だいう）などが使われ、おおむね健胃、吐き気止め、利尿、抗菌、咳止め、風邪予防、血液浄化、発汗促進、下痢止めなどの効能があります。健胃薬や、初期の風邪にも効くことから風邪予防の薬としても飲まれていたそうです。風邪予防といいますが、ご年配者や受験生にとって魅力的に思われるでしょうが、薬効が現れるほどの屠蘇をのむこと

は危険です。脱水、消化器症状、炎症が現れることも考えられるからです。

近年は風邪薬や健胃薬を病院から処方されることも少なくなったのではないのでしょうか。もし病院にかかった場合は胃粘膜保護剤、胃酸分泌抑制剤、制吐剤、抗ウイルス薬、抗菌薬、鎮痛薬、解熱薬、鎮咳剤などより具体的な薬効を持つ薬剤が処方されます。一方、市販の風邪薬、胃薬は多種類の成分を配合しており、効能が多岐にわたる場合が殆どです。いずれの場合も無理な生活態度、暴飲暴食、寝不足、休養不足等は禁忌です。

あわただしい年の瀬ではございますがどうぞ無理をせず、お正月には御屠蘇で家族の幸せを互いに願えるよう、体調管理には気をつけていただきたいと思います。



## 知っていますか？ 検査の話 乳がん検診について



検査部・病理部  
主任技師  
橋本 教経

日本女性の16人に1人が乳がんにかかるといわれています。亡くなる方は年々増加し、今では年間約1万人。ここ30年の乳がんの急激な増加は、食生活やライフスタイルの変化がエストロゲン(女性ホルモン)の分泌に影響しているためとみられています。乳がんにかかる人は30代から40代にかけて急増し、40代後半から50代をピークに緩やかな低下を示します。乳がんは女性の壮年期(30~64歳)のがん死亡原因の第1位を占め、比較的若い時期にひとつのピークがあることは女性にとって心理面はもとより社会的にも大きな影響を与えています。

乳がんから身を守るために、まずは乳がん検診を受けましょう。「精密検査が必要」という検査結果がでたら、乳腺専門医がいる医療機関で視触診、マンモグラフィ検査、超音波検査を行い、その検査結果をみて細胞診、組織診を行い、良性か悪性

か診断されます。良性であれば、半年に1回か年に1回の検診となりますが、悪性の場合にはがんの治療に進むこととなります。治療には手術療法、ホルモン療法、化学療法、放射線療法、免疫療法などを組み合わせて治療が行われます。

当院では今年度より新たに乳腺外来が開設され「体にやさしい乳がん治療に取り組んでいます。年々増えている乳がんですが、早期発見であれば約90%の人が治癒します。決して怖い病気ではありません。だから早期発見のために乳がん検診を受けることが大切なのです。





## 【好生館ニュース】 新病院建設の進捗と移転計画について



新病院建設部長  
川崎 真澄

新病院の建設工事につきましては、病院棟の建設が完了し、先般12月20日（木）に引渡しを受け、既に好生館において管理を行っているところです。年明け早々に廊下や壁等の養生を行い、医療機器や什器・備品類などを搬入することとしています。

その他、新病院の敷地内では、研修棟（6階建：1～3階…研修エリア、4～6階…研修生宿舎エリア）の建設工事及び保育所棟工事、職員宿舎、院外薬局、外構の工事を引き続き実施しており、3月末には全ての工事が完了する予定です。建設工事の完了までは、安全には十分注意しながら進めてまいります。

さて、新病院は名称を「佐賀県医療センター好生館」と改め、来年5月7日（火）に開院することとしています。医療機器の搬入及び試運転、電子カルテシステムなどの医療情報システムの整備調整、什器・備品類の搬入、スタッフ研修などを行い、開院に備えることとしています。

現病院（佐賀市水ヶ江）から新病院（佐賀市嘉瀬町中原）へ移転するに当たっては、どうしても外来休診や手術停止などを行う必要があり、その期間は次のとおり定めています。

- |           |                       |      |
|-----------|-----------------------|------|
| 1 外来休診    | 4月27日(土)～5月6日(月・振替休日) | 10日間 |
| 2 救急外来休診  | 4月30日(火)～5月1日(水)      | 2日間  |
| 3 予定手術停止  | 4月27日(土)～5月6日(月・振替休日) | 10日間 |
| 4 入院患者移送日 | 5月1日(水)               |      |
| 5 新病院開院   | 5月7日(火)               |      |

県民の皆様にはご不便をおかけいたしますが、新病院は佐賀県の中核医療機関としてまた基幹災害拠点病院として、これまで以上のより良い医療の提供ができる病院となるよう、関係者一同精一杯努力してまいりますので、皆様方の一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



4階病棟(4床室)各ベッドサイドに窓を設置



5階小児病棟 廊下（壁面に子供向けアートを予定）

### 新任医師 の紹介

（平成24年10月1日～12月31日）



眼科 医長  
榎田 圭輔

# 外来医師一覧表

(平成24年12月1日現在)

区分			月	火	水	木	金	
内科	午前	新患	1・3週 2・4・5週	榎藤 久司	土居 隆志	吉村 達 近藤 誠司	土居 隆志	松石 英城 吉村 達
		呼吸器	新患 再来	中島 千穂 森塚 達也	岩永 健太郎 中島 千穂	森塚 達也 岩永 健太郎	岩永 健太郎 中島 千穂	森塚 達也 岩永 健太郎
		肝臓・胆のう・膵臓		大塚 紀子 大塚 大河	秋山 巧	川添 聖治 大塚 大河	川添 聖治	大塚 紀子 秋山 巧
		消化器(胃・腸)		富永 直之	緒方 伸一	渡邊 聡	緒方 伸一	富永 直之
		血液	新患 再来	近藤誠司/久富 崇 松石 英城	松石 英城 中村 直	近藤 誠司 松石 英城	近藤 誠司 久富 崇/近藤誠司	久富 崇 榎藤 久司
		腎臓・透析		大塚 伸	中村 直	大塚 伸	大塚 伸	中村 直
		糖尿病内分泌		土居 隆志	吉村 達	土居 隆志	吉村 達	土居 隆志
		腫瘍内科 (再診・院内コンサルト)		嬉野 紀夫	嬉野 紀夫	嬉野 紀夫	嬉野 紀夫	嬉野 紀夫
		感染症 (再診・院内コンサルト)		福岡 麻美	福岡 麻美	福岡 麻美	福岡 麻美	福岡 麻美
		膠原病・リウマチ (第2・4金 14:00~)						多田 芳史
外科	午前	消化器・一般	新患 再来	田中 聡也 廣橋 喜美	田中 雅之 佐藤 清治	廣橋 喜美 廣橋 龍次/廣橋喜美	廣橋 龍次 手 術	佐藤 清治 田中聡也/田中聡之
		乳腺			手 術	手 術	手 術	白羽 櫻雄
		呼吸器			光岡正浩/寺岡泰宏	光岡正浩/寺岡泰宏	光岡正浩/寺岡泰宏	光岡正浩/寺岡泰宏
		小児外科		生野 暁/田口正平	手 術	吉丸 耕一郎	生野 暁/田口正平	手 術
眼科	午前		担当医 (新患のみ)	手 術	古賀 隆史 瀬田 主輔 河田 康祐	荒木 理子 (担当医のみ)	手 術	古賀 隆史 福永 由起子 河田 康祐
産婦人科	午前	婦人科		安永 八並 牧生 貞子	安永 小野 宮田 早織	手 術 (急患のみ担当医)	八並 貞子 小野 剛史	手 術 (急患のみ担当医)
		産科		小野 剛史		安永 牧生/宮田早織		
小児科	午前			市丸 智浩 巖本 愛子 荒木 薫	西村 真二 力武 榮穂子 荒木 薫	市丸 智浩 西村 真二 巖本 樹里	市丸 智浩 力武 榮穂子 荒木 薫	西村 真二 巖本 貞子 荒木 薫
	午後		アレルギー外来 /予約接種/乳児健診	予約接種	予約接種/ アレルギー外来	アレルギー外来 1ヶ月検診	アレルギー外来 1ヶ月検診	予約外来
	午後(時間外)			その日の担当が診察します。				
耳鼻いんこう科	午前		手 術	宮崎 純二 恒富 今日子 松下 英女	手 術	宮崎 純二 恒富 今日子 松下 英女	宮崎 純二 恒富 今日子 松下 英女	
皮膚科	午前		武下 泰三 北 和代	武下 泰三 北 和代	武下 泰三 北 和代	手 術	武下 泰三 北 和代	
	午後 (16:00~)						予約外来(再診のみ)	
泌尿器科	午前		徳田 倫章 内野 洋志 李 賢	徳田 倫章 内野 洋志 李 賢 長沼 英和	手 術	徳田 倫章 内野 洋志 李 賢 長沼 英和	内野 洋志 長沼 英和	
整形外科	外傷整形外科		前 隆男 竹内 直英	佛坂 俊輔 (新患)	手 術	前 隆男	竹内 直英	
	関節・一般整形外科		野口 康男 前 隆男 佐々木宏介			野口 康男 佛坂 俊輔 (再来)		野口 康男 佐々木宏介
	脊髄外科		川口 謙一			川口 謙一		川口 謙一
	午後		予約再来			予約再来		予約再来
放射線科	消化管診断外来				梶原 哲郎	梶原 哲郎		
	画像検査部門外来		野尻 淳一 (高武 邦茂) 梶原 寿浩	川野 倫作 (野尻 淳一) 梶原 寿浩	高武 邦茂 (川野 倫作)	川野 倫作 (野尻 淳一)	川野 倫作 (野尻 淳一) 梶原 寿浩	
	消化管造影		梶原 哲郎	梶原 哲郎		高武 邦茂	梶原 哲郎	
	放射線治療		渡辺 哲雄	渡辺 哲雄 (徳丸直郎:午後)	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	
脳神経内科	午前	新患 再来	関 賢太 高島 洋	高島 洋	関 賢太 岩崎めぐみ	岩崎めぐみ	岩崎めぐみ 高島 洋	
	午後 (14:00~16:00)					パーキンソン病 外来(予約制)		
脳神経外科	午前		坂田 修治 萩原 直司	萩原 直司	坂田 修治 高口 素史	手 術	坂田 修治 高口 素史	
精神科	午前		植木 裕司	植木 裕司	植木 裕司	植木 裕司	植木 裕司	
	午後		植木 裕司	植木 裕司	物忘れ外来	植木 裕司	植木 裕司	
循環器内科	午前		貞松 研二 塩見 哲也	吉田 敬規 岡原 有秀	吉田 敬規 白濱 尚治	古閑 靖幸	林田 潔 塩見 哲也 三根 大悟	
	不整脈外来		水元 康嗣		水元 康嗣			
心血管外科	午前		手 術	内藤 光三 村山 隆一	手 術(午前中のみ 紹介・予約:榎木等)	内藤 光三 村山 隆一	手 術	
緩和ケア科	午前		小杉 寿文 濱田 献			小杉 寿文 濱田 献		
人間ドック	一般		井之口香映子	井之口香映子	榎藤 久司	井之口香映子	井之口香映子	
	脳ドック		高島 洋	坂田 修治			高島 洋	
	心臓ドック					榎木 等/林田 潔		